

士幌高原道路工事再開に 道理はあるか

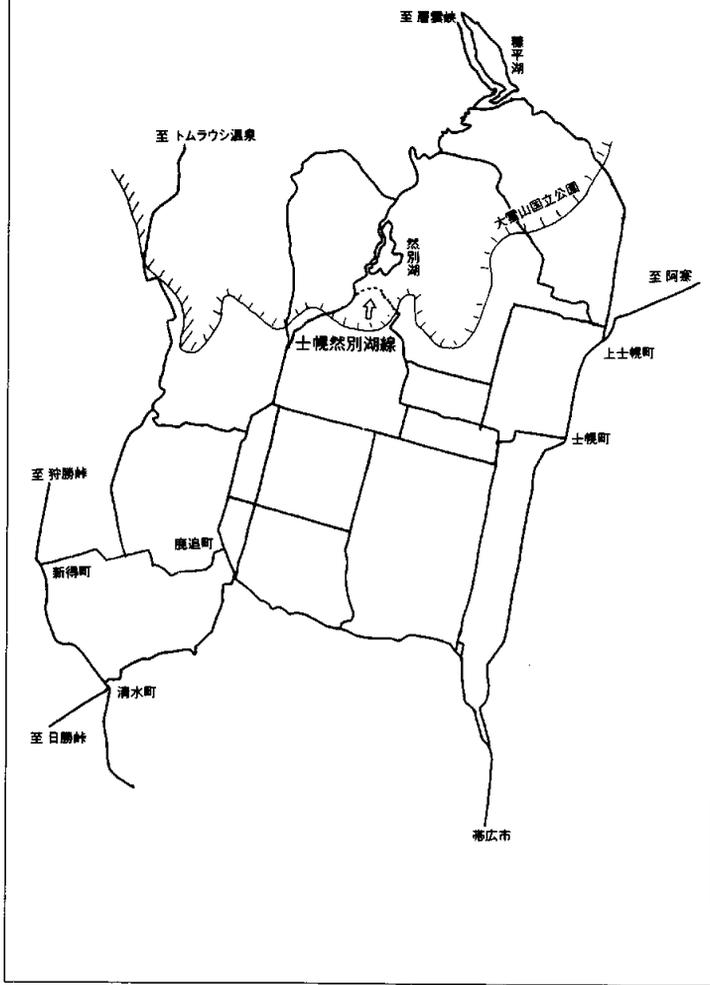


川辺 百樹



士幌・然別湖線から十勝平野を望む

十勝地方北部道路網略図



自然保護の声の高まりによって、大雪縦貫道とともに中止に追いこまれた一般道々士幌然別湖線、通称士幌高原道路は、昭和六十二年六月北海道土木部が工事再開に向け自然保護団体と協議に入る意向を表明したことにによりにわかに浮上してきた。

六月二十二日工事再開に熱意を示す士幌町とも縁の深い日本社会党の丸谷金保参議院議員が工事再開に向け自然保護団体の説得に当ると言明し（北海道新聞昭和六十二年六月二十三日付）、その後、当協会を訪問された。これに対して中野・紺谷・俵理事らがこの道路の自然環境調査を協会が担当した経緯

などを説明し、国立公園内の道路建設に関する「林修三自然公園部会長談話」をあげ、この道路建設に反対する協会の態度について詳しく述べた。丸谷氏は、八月十九日の参議院環境特別委員会で林談話の趣旨は今でも生きているか、と質問し、政府委員（古賀章介環境庁自然保護局長）に、「現在もこの談話を踏まえて対処しているが、林談話以前に認可された道路にはこの談話は適用されない」と答弁させた。

（資料参照）

一方、七月八日の道議会本会議では日本社会党の鈴木議員の「この調査報告書がまだ内容が公表され

ず、事態も進展していないが、現在どのような状況であるか」との質問に対し、横路道知事は「地元の住民や地元の自然保護団体のコンセンサスを得ながら、自然環境と調和のとれた未開削区間の道路建設に向けて取り組んでまいりたい」と答弁した（資料参照）。

こうして、この地域の貴重な自然を護ってゆくという国民の良識によって十五年も凍結されてきたこの道路の工事再開問題は、本格的に動き出したのである。

この事態に対して、協会は七月一四日「本道路は経済的メリットにも社会的必要性にも欠けるのみならず、貴重な原始的自然を破壊するおそれがあるため、本工事の着工を中止するよう」道知事並びに士幌町長に要請を行った。

さらに一〇月一六日には北海道自然保護連合、当協会及び然別湖の自然を考える会の三者による同道路の工事停止を求める要請が行われ、一二月五日には鹿追町で上記三者による「シンポジウム・開発と自然保護」が開催され、この工事停止をもとめる「然別湖からのアピール」が発表された。

これらの再三にわたる反対にかかわらず、道側は道路着工の意向を変えることなく、十一月二六日から自然環境調査報告書が縦覧され、本年一月二七日には士幌町で公聴会が開催された。さらに二月二日には学識経験者によるこの調査報告書の検討委員会が発足し、士幌高原道路工事再開問題はいよいよ大詰めを迎えようとしている。

★工事再開推進派の主張

以上のべたようにわずか二・五キロメートルというこの小さな道路をめぐって、政治力をも使った巨

大な力が動いているわけだが、工事再開を要求する人々の根拠は本当に社会的に妥当なものなのであるか。ここで、まず公聴会で出された推進派の意見を紹介し、検討することしよう。

森本辰蔵（士幌町開発と自然保護の会々長）

・この道路がなかったために、山を守る上で町の先達がどれ程苦勞を重ねたかを説きこの道路の必要性を強調。自然の保護には充分力を入れてゆきたい。

高橋健治（鹿追町議）

・十勝の産業発展のために大きな価値をもつ。

・山火事対策としても道路が必要。

池本柳次（十勝地区労会議事務局長）

・北西十勝の観光産業開発のために必要。

岩田トシエ（士幌町婦連協会会長）

・土幌町の活性化のために必要。

・道路がないと山火事るとき、手がうてない。山火事でナキウサギやカラフトリスジミが絶滅して

もよいのか。

鈴木洋一（士幌町開発と自然保護の会事務局長）

・地域活性化と観光開発のためだけでなく心ゆたかな農業人教育のために必要。

・他処からの観光客にも北海道農業を知ってもらうために必要。

渡辺信行（上士幌町）

・美しい自然にふれることは人間の幸せである。したがってこの道路が必要。

山田辰雄（鹿追町）

・個人的経験から道路建設によってナキウサギ、駒

止湖への影響はないであろう、と主張。

太田 助（士幌農協参事）

・農業の活性化と関連産業の発展のため。
・生産者と消費者が農業や地域産業を理解し合うため、美しい自然景観の中でのプロムナードコースとして人びとのふれ合う場とするため。
・地域的広域的農業の活性化をはかるため。
・都市でストレスを持つ方々に人間回復、健康回復に貢献するアメニティーの創出を図るため。

・士幌農協を視察に訪れる人々に農業のショーウィンドウとしてこの景観を提供するため。

・農業と観光を結びつけ新たな付加価値を生むことを実証するため。

・あと二、六キロだけである。中止により税金をむだに使わないため。

・自然は自然保護団体のためのものではない。国民

全体のものである。

・山火事など不測の災害、事故に遭遇した場合の緊急連絡道とするため。

亀田 実（鹿追町議）

・広域観光産業の展開に必要。

小池幸雄（音更町）

・十勝の観光開発のために必要。

・地域経済の活性化に必要。

（敬称略、発言順）

以上が公聴会の席上出された推進派ないし賛成派

の工事再開の根拠である。つまり、地域活性化の起爆剤としての観光産業開発が最大の拠りどころとなり、これに山火事対策、災害時の連絡道、その他を

からませるといふ構図である。

これに対して、工事再開に反対する意見の要旨を

つきにかかげる。

野州健治（十勝自然保護協会々長）

この調査報告書は駒止湖やナキウサギへの影響

などについて科学的に納得できるような説明が不足し、不備である。

多くの人びとの知恵を結集せよ。

地元の自然保護団体との話し合いをしながら進めよ。

八木健三（北海道自然保護協会々長）

この調査は当協会が委託をうけて行ったものでこの調査報告書をまとめた責任者の一人として意見をのべたい。

この調査報告書には二つの問題点がある。この

道々予定地は昭和四〇年代に町道開設計画によりかなり伐開が行われた処であるため、その後われわれの行った自然環境調査でも、自然度が低く評価されているのが第一点である。

つきにこの調査での影響評価では、道路建設による一次的な影響については種々検討しているが道路開通後の人びとの入り込みによる影響、高山植物の盗掘、ナキウサギへの影響、排気ガスの影響などについての評価はなされていない点である。

つきにこの道路の社会的必要性が強調されているが、然別湖へは既に鹿追、糠平湖方面より二つの道路があり、さらに士幌町より開通させるべき必然性はみとめられない。又この道路によって観光者が増大するメリットも大きなものではなく、この開道によるこの貴重な自然の破壊のデメリットがきわめて大きいことが憂慮される。

さらにわが国の各地の高山地域での道路開発がとりかえしのつかない大規模な自然環境の破壊を招いておること、しかもこれらの道路開通にとともなう地域の振興開発への経済的寄与はきわめて低い。

一般道産士概然別湖線
自然環境調査報告書に関する公聴会

事業計画図



公聴会風景一公述しているのは八木健三会長
(写真：毎日新聞社提供)

沢田耕治（然別湖の自然を考える会事務局長）

・この道路は観光道路と考えられるが、道路が出来たから、観光客が増し、地元がうるおうということにはならない。

・貴重な自然の地域に道路を通すべきでない。

・北海道の観光のあり方を再検討すべきである。

川辺百樹（ひがし大雪博物館学芸員）

・この自然の貴重性を考えると、道路を通すことにはならない。

・土木部は緩衝帯という概念を知らないから、調和のとれた道路づくりが可能と強弁しているにすぎない。

石川慎也（帯広畜産大学々生）

・迂回道路は既存のもので充分である。

・緊急時の連絡道というのではキリがない。

・大きな視点から見ると、観光開発にこの道路の果す役割はきわめて局地的である。

・林談話のいう「国立公園内に新設すべき道路としての前提条件」にかけている。

★観光産業開発にとって必要か

さて、さきのべた工事再開推進派の根拠に反論することしよう。

推進派の多くの人が、観光開発のためにこの道路が必要であると主張している。

然別湖への入込み客が阿寒や摩周方面に比べ半分以下であるのは道路網の整備が遅れているからである、という亀田実氏の発言に象徴されるように、観光のはじまりは道路開削であるということらしい。

道路が出来れば入込み客が増えるという図式は、一面では真実である。確かに排気ガスをまき散し、空カンを投げずる客は増えるであろう。しかし最



調査風景

も重要な宿泊し、滞在してくれる客が増えるかというところではない。このところを讀み違えると、これまで人を引きつけてきた太古の薫りに満ちた自然をすり切れた魅力のない自然にしてしまい、気がついた時には、その観光地に凋落が訪れるということになりかねない。すでにこうした例は北海道に少なからずある。

旧来の発想で今、栄えている観光地に追いつくことはできない。これからの観光のあり方あるいは国民の余暇の使い方を客観的に見直し、それに対応した観光産業の振興を考えなければならないのではないだろうか。

早がけツアーから滞在型観光が指向されつつある今日、観光開発は道路開削からというのでは時代錯誤もはなはだしいし、社会的説得力もない。

次に山火事対策であるが、かつて、土幌町民が消火活動に苦勞したことに敬意を払うものである。しかし、だからといって道路が必要だというのは今日の発想ではない。現在は空中からの消火活動もできる時代である。

災害時の緊急連絡道というのも土地勘のない人にはもつともらしく聞えるかもしれない。しかし、現在然別湖畔の温泉街には鹿追と糠平から道々が通じており、さらにこの道々には別方向から二本の峰越林道が接続しているのである。この道路開削によってどの部分のどのような種類の災害にどれ程効果的に対応できるというのであろうか。

鈴木洋一氏がいう心ゆたかな農業者教育のため、太田助氏がいう生産者と消費者のふれ合いのプロムナードあるいは人間回復、健康回復に貢献するアメニティーのため道路が必要だという主張にも言及しておこう。あの北海道でもたぐいまれな自然を無理

やり引き裂いて造られた車道にたたずんで人の心が豊かになり、人間性を回復できるともいいうのであろうか。

このように推進派の人々の工事再開の根拠は、これから先数十億円もの血税を使うというには、余りにも社会的妥当性に乏しいといわなければならない。

★「道々士幌然別湖線検討会議」に望む

この公聴会のあと、道は学識経験者により、「一般道々士幌・然別湖線自然環境調査報告書検討会議」を構成し、この会議に本調査報告書の検討をゆだねることとし、その委員として北大及び帯広畜産大学の教授、名誉教授等六氏を委嘱した。この会議は公聴会等の意見も参考としながら、調査報告書の内容についての検討を行い、現地調査なども行つて結論を出すとされている。

検討会議の委員になられた方々は、それぞれの分野で高い評価を受けている人たちであろう。したがって、この地域の自然的価値について深い認識を持つておられるに違いない。

蛇足ながら、本路線の自然環境調査に参加し、現在も東大雪の自然史を調べている者として一言申し上げておきたい。

道路開削が計画されているこの地域は自然史の上で北海道でも比類ない所である。この状態をかく乱することなく後世へ保存することが人類の英知である、ということをおこす。

資料①

参議院環境特別委員会々議録(昭和六二・八・一九)

○丸谷金保君

自然保護の問題について伺います。

昭和四十八年の十月十九日に自然環境保全審議会の林

自然公園部会長の談話が出ております。これは主として大雪山国立公園の問題等でございますが、この談話の趣旨は今でも生きておるんですか。

○政府委員(古賀章介君) 審議会の御意向でございますし、現在におきましてもこの談話を踏まえて対処をいたしております。しかしながら、談話以前に認可された道路につきましては適用されることはないということでございます。

○丸谷金保君 これから私問題にしようとしている土幌高原道路は、もう既にその前に認可をされているのだからこの談話の適用外だというふうに解釈してよろしゅうございませうか。

○政府委員(古賀章介君) 今申し上げましたように、先生御指摘の審議会の部会長談話は昭和四十八年十月でございますから、それ以前に認可されました道路には適用されることはないということでございます。

資料②

自然環境保全審議会林自然公園部会長談話(要旨)

(昭和四十八年十月十九日)
国立公園等における道路の新設については、原則として公園利用の観点とか経済的、社会的観点などから、その道路が是非必要であり、他にこれに代る適切な手段が見出せないことが前提とされなければならない。

さらにその場合においても、事前に当該地域の自然環境について、地形、地質、気象、動植物等の観点から十分な科学的調査をおこなない。

○原始的自然環境を保持している地域

○亜高山帯、高山帯、急傾斜地、崩壊しやすい地形地質の地域等緑化復元の困難な地域

○稀少な野生動植物、昆虫等の生息生育または繁殖している地域

○すぐれた景観を保持している地域
など道路建設に伴う人為的要因が、大きな自然環境の破壊の誘因となるおそれのある地域は、あらかじめ慎重に避けるよう配慮されるべきである。

(ひがし大雪博物館学芸員)